

「第 2 回 海部川砂利利用促進協議会」議事概要

■日時：平成 28 年 7 月 26 日（火） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分

■場所：海陽町役場 3 階大会議室

■出席者：

（委員）

長田委員長	阿南工業高等専門学校准教授
堂上委員	徳島文理大学准教授
見吉委員	海部川砂利採取組合理事長
谷口委員	徳島海部生コンクリート協同組合副理事長
丸本委員	とくしまブランド戦略会議委員
原 委員	かいふ農業協働組合女性部役員
天野委員	海陽町商工会女性部部長
中川委員	母川流域住民
長谷委員	大里地域住民部落長・・・（新委員）
土居委員	海部川漁業協同組合代表理事
中野委員	鞆浦漁業協同組合組合長
田中委員	日和佐ウミガメ博物館カレッタ学芸員
花岡委員	NPO 法人コモンズ理事
笠原委員	海陽町ニューツーリズム推進協議会会長

（事務局）

徳島県南部総合県民局、海陽町

■次第：

1. 開会 前田海陽町長 挨拶
2. 議事
 - （1）要綱の改正
 - （2）これまでの取り組み対する報告
 - （3）新たな砂利利活用制度
 - （4）今後の予定
3. 閉会

■配布資料：

- （1）議事次第

- (2) 海部川砂利利用促進協議会設置要綱 (案)
- (3) 海部川砂利利用促進協議会設置要綱 新旧対照表
- (4) 委員名簿
- (5) 配席図
- (6) 説明資料

■議事：

1. 開会

海陽町前田町長より挨拶

2. 議事

- (1) 委員の同意により、海部川砂利利用促進協議会設置要綱のうち第 3 条 2 項の委員の任期に関する内容が改正された。
- (2) 「これまでの取り組みに対する報告」、「新たな砂利利活用制度」、「今後の予定」について、資料に基づき事務局から説明された。

<意見交換概要>

【C委員】

C ゾーンの現在の状況は、4 月から約 32,000m³ の砂利採取を計画いたしまして、これまで約 28,000m³ を採取している。この効果は、今のところ十分に立証出来ていないが、これまでの経験から、これによって少なくとも 1 シーズン 2 シーズンの異常堆積が免れるのではないかと思う。

C ゾーン地区において堆積した砂利を採取することによって、下流に異常堆積をする砂利が止められるということで、非常に効果がある計画と確信している。ただし、搬出先が東洋町にあり、距離が非常に遠くてコストが非常に高くなっている。東洋町の骨材会社と色々協議をするなか、これが継続できるかどうかは、今後、どれだけ補助金等の協力体制が得られるかにかかっている。現在の補助金では厳しい。C ゾーンの堆積砂利を取るということは、将来の河床安定に大きな効果があると思っている。

【D委員】

生コンの生産側から言えば、海部川の堆積砂利は宝の山で、素晴らしい骨材である。

海部川の砂利を材料試験場で調べてもらった結果、硬い所が残った非常に硬くて強度の強い素晴らしい生コンができる。どこか遊休地の広い場所を利用して、とりあえず災害を防ぐ為に、そこに堆積砂利を採取して積んで、それから消費ができるんやったら無駄にならないと思う。

採取している場所が笹草と大野の間にあり、野根のどこまでやったら、1 日 5～6 車しか運べない。生コンの骨材は素晴らしいんやけど、運賃がものすごくかかる。それで骨材業

者も取ろうかな、どうしようかないうて足踏みしている。運賃の負担の事を考えていただければ、一旦仮置き場に置いといたら無駄にならないと思う。

【E 委員】

B ゾーンの新たな砂利利活用制度を見て、これは結構良いと思う。仮置き場に置いてもらって我々も利用したい。埋め立てするんやったら、砂利のふるいわけは必要ない。大きなもの小さいものも混ざってとても良い、無駄じゃないのかなと思う。

仮置き場は検討中ですか？河川の広いところに仮置き場にして「勝手に持っていけよー」いう風なことでもいいんじゃないかなと思う。

【F 委員】

定例会でも述べましたように、私はこの堆積砂利を活用して高台を作りたいと思っている。災害時には避難場所として使うことも考え、堆積砂利をいっぱい積んでおき、もし何かの場合に、山を崩して資材としても使えると思う。

【G 委員】

使い道って本当にいろいろあるんですけども、個人的には駐車場が雨が降ったら水浸しになるんで、そこへ貰えるもんなら貰って整備にあてたいと思う。

【H 委員】

後先になったんですが要綱を改正するにあたっての、何故改正に至ったのかそういう説明も必要であったと思う。

砂利活用制度について PR のポスター等で知らずとなっているが、PR のポスターを作るにあたっては、やはり住民の方がすぐ見てわかるように作成していただきたい。広報に出しても、具体的に書いていてもなかなか皆さん見ないので、一目見て興味をそそるような、自分もやってみようかなということが必要になってくる、そういうことも検討してほしい。

砂利処分に苦勞されているが、町内に埋められるような所があると思う。住民の声を聞いていくことも必要である。近くを流れる母川は、以前に流れていた川をせき止めて、中山地区に大きな川をつくっているが、以前の川がそのままになっている。草が沢山生えて放置されている。ここを埋め立ててしまえばいけないのかなと、個人的に思う。

というように、海陽町のいたる所で住民の方が埋め立てして欲しいと思っている地区があるのではないかなと思う。そういう住民の意見を聞いたり、専門家の方に検討していただいて、砂利で埋め立てていくとか、そういう手法もあると思う。

【I 委員】

大里海岸に砂を入れる、土砂を入れるのはかまわん、確かに砂浜はやせとると思う。

ただ、やせとるからと言って、逆に入れたら砂が上がってきて、今度松林がなくなってしまうのではないかということを懸念している。今の堤防は、全く堤防の役目を果たしてないと思う。それをもっと埋め立てる感じでどんどん大きく上げていったらいいかんと思う。昔の航空写真を見て、入れる場所を決めて入れていったら良いと思う。

あと地盤の嵩上げ、大里松原でも低いところがあって、入れたいところがある。ただ、土地を埋め立てたら、用水代増え、工事したお金もかかり、地権者は莫大なお金が必要となる。それを全部、農家の人は負担していかないかん。やった所で、今少子化で活用する人間も減っている。自分らの代で終わってしまう、今そんな状態である。

河川にいっぱい草や木が生えている、それらを伐採して、そこに砂利を盛るという案もできると思う。一度検討して欲しい。

【J 委員】

協議会の方には要望等ありませんので、また具体的な採取時期等々について、県の方には配慮して頂きたいと思う。

【K 委員】

前回の話では、大里松原海岸に堆積砂利を置かなあかんという話で、だいたい話の内容が違っている。

小さい頃から大里松原海岸をずっと見ているが、相当、砂浜の量は減っていると思う。やはり少々人間の力で砂を与えてやらなければ、将来、砂が完全になくなると思う。自然で採取した砂は、やっぱり自然に戻すのが理想の形だと思う。

【L 委員】

ウミガメのボランティアをしている方も、砂浜がやせてきたと言っており、特に中腹、真ん中あたりが大分やせたと言っていた。現在、防潮堤が機能していないというか、溜まってしまいう構造になっているので、その結果、砂が溢れ出してしまう現状がある。これに対しては、やっぱり砂浜も形がちょっと変なサイクルになってしまっていて、何とかしないといけないかなと思っている。

今回押土に関しては、どういうサイクルになるか分からないが、砂が減るのではないかと心配している。いざ、この養浜をしないという形になった時に、砂浜がやせてしまうと思うので、何かしらで、養浜をしていかなければならないし、ちゃんと潮流の変化とか台風の状況など観察して、どこに入れていったら海部部落の方に迷惑にならないかというのを、検証しながらやっていく必要があると思う。

また、砂の粒径についても心配している。今回、砂の粒径を見てきましたが、ウミガメが産卵できる粒径の砂というのは非常に細かい。砂場の砂くらいでして、このような砂が防潮堤の前くらいにしか溜まっていないのが現状である。ウミガメが産卵するのは防潮堤

よりも 20m～30m先あたりなんですけれども、そこは大きい石がごろごろしていて、産卵に適していない。

それを何とかしてほしいという意見もあり、場合によっては、そこら辺に細かい砂を入れてみてはどうかと思う。海岸工学の専門家の方の意見を聞いていただいて、ウミガメの産卵成功率を増やすという目的で、細かい砂を海岸中腹あたりに移すというような対策が有効かもしれない。

あと、産卵時期に工事がかぶらないように、するとしたらウミガメの脱出が完全に終わった 10 月以降で、始まる 5 月前までになんとか終わってほしい。

【M委員】

砂利の活用区間 B ゾーンですが、仮置き場をつくって、そこから町民の方に取りに来ていただくというような話があったと思うが、例えば、できるだけ川から直でいけるような、取りに来てくれるにしても、全額住民の方が負担というのではなくて、そこに補助金制度のような何かソフト的なようなものをつくって、取りに来てくれる人には少し、例えば「1/3 補助しますよ」みたいなものがあるとか、それもただ単に取りに来てくれるからだけではなくて、また防災の視点で自分のところの防災のことを考えて、土地を上げたいから砂がほしいとか砂利がほしいとか、そういった条件をいろいろつくった上で、補助を出すという風な仕組みをつくられてはどうかと思う。

ただ単に砂利を好きなように使ってねというのではなくて、少し防災の視点であるとか、教育の視点、いろいろ視点があるかと思うので、そういったものを整理して、それに適うところであれば、個人であっても企業さんであっても補助を出すという仕組みがあれば良いと思う。

あと、広報の関係ですが、例えば町内会ごとに、回覧でちゃんと見てもらい、町内会長さんにはしっかり理解していただいた上で、「町内会に回してください」みたいな、もう知らなかったという風には言わせないというような、何かそういった形での取り組みも必要かなと思う。

それと、教育の視点ですが、子供の体験活動という風なもので、少し啓発運動ということで、川とそれと前も言ったんですが、森林部局のほうで「木育」という木を使って教育しようみたいな考え方があるので、そことの連携で山と川をつないだ形で体験活動をして、そこで森林を守ることも大切だし、それが川に影響を及ぼしているっていうようなことも、子供たちにも知ってもらおうというような活動ができていけば良いかなと思う。

【N委員】

実は、県の方から、今回お話を伺ったときに、高校の方にも早速聞いていただいたということで、ありがとうございました。

H委員が言ってくれましたが、広報の力というのはほんとに限られてくるので、一番は何

かというロコミだと思う。ロコミによって、意識改革をするというのは大事なことで、住民の意識改革をする上で、住民自身も川をどういう風にしていただいたらな、という思いをきちんと持つというのが大事かなと思う。

子供たちと、M委員さんが言っていたようなイベントを通じて、海部川ってこういうことをしてるんだなって、住民の目を向けさせることもすごく大切なのかなと思う。

実際に砂利を使いたい人、何人かいますが、「この砂利って採ったらいかんのだろ？」って「勝手に採って行ったらいかんよな。」っていう意識があるので、気安く自分の個人の家にも使えるっていうのを分かっていたくような仕組みづくりと、高齢者の方が採りに行きたいんやけど、若いもんもおらんし近所の人にも頼めんしって言われたときに、「それなら私が取りに行ったんで」っていう役目を持つ行政なり地域住民なりがいてくれたら、もっと簡単に砂利を消費することができるんじゃないかなと思う。

【B委員】

委員の皆さん方のお話を聞かせていただく限り、この取り組みについては皆さん賛成だけれども、具体的な運ぶ場所であるとか運賃であるとか細かい課題が残っていると思う。やはりしっかり住民の方と話し合いをしながら、これをどういう風に活用していくのかということをもっと詰めて話していく必要があると思う。

こういう大きな協議会では難しいところもあるので、町内会であるとか部落会とかいろいろ細かいところで、意見を細かく聞いていただいて、それを吸い上げて、協議会に持ってくるというシステムが必要かなと思う。

砂利の有効活用に関しては、高齢者の方が、仮置き場から運搬を自分たちでするのは大変かと思うので、仮置き場の適切な設置場所あるいは運搬を手伝ってくれるようなそういうボランティアを募るとか、そういうのも必要かと思う。

また、ウミガメの産卵場所というのは、なかなか日本では減ってきているので、そういう貴重な地域ではあるので、それを守っていくという意識を住民の方も若い方も、いろんな方に知っていただくという意味で砂利だけでなく、そこで出てくる細かい砂を今度どうしていくのかということも考えていく必要があると思う。

地域でうまく運用できるようになれば、せっかく良いコンクリート材料であるので、今後、ブランド化していくような将来的なそういう計画を立てていけるような仕組みを前提において、広い目で見えていくというのも必要と思う。

【事務局】

皆様方、大変貴重なご意見を頂きまして、大変ありがとうございます。このひとつひとつの質問に対して、今この場ですべてを答えるということは、なかなか難しいところがあるので、今日頂いた意見を、十分に参考にしながら、徳島県だけでなしに、海陽町さんとも連携を図りながら、今日いただいた意見を具現化していくといえますか、具体的なもの

にしていきたいという風に考えています。

【A委員】

まず、海部川の砂利は非常に宝の山であるというお話がありましたが、それを継続してやっていくためには、少しでも運搬費っていうところの負担ですね、それを軽減するっていうのが喫緊の課題だと思うので、そこは少し考えていただきたいという思う。

今回、大里海岸への養浜ができなかったと、その理由として大里地区での砂の乗り上げが懸念されるということで、ただ一方で、かなり砂浜がやせてきていると、入れなきゃいけないということは確実にあるという中で、非常にバランスの難しい話になると思う。

ウミガメの産卵位置は、汀線から 20～30mのところか？

【L委員】

堤防から海側に 20m～30mのところである。

【A委員】

砂をうまく置いていくというのはなかなか難しいですが、特に川砂の方が、少し大きいということで、養浜に対して多分海側のほうに入れていけば、そういった大きなものはある程度効果を持つかもしれませんが、浜の方に直接入れてしまうと、ウミガメの産卵に対して影響が出るかもしれないという危惧がある。

まずは、押土でその効果を確認しながら、堤防を乗り上げないようにいくことを見ながら、今後、養浜というところに頭が向いていくのだらうと思う。

少し気になったのが、養浜をする前に、ウミガメの状況（産卵数とか場所）をしっかりと調査しておいた方が、今後の養浜のために、データとしては必要になってくるかと思うので、そこをお願いしたい。

河川の樹木に関しては、河道内の樹木の繁茂によってかなり土砂堆積が生じてきている。これを放っておけば、どんどん片側だけがこういう風に堆積し、一方でその反対側の河床がどんどん下がってくる。堤防の高さが洪水を制御するような状況になっていたとしても、片側の河床がどんどん下がってくると、洪水が集中し、洗掘等で結果的にその堤防がやられるという、そういった事例もございますので、砂利を取るということと、合わせて樹木管理をどういう風にやっていくかを考える必要がある。

【I委員】

大里部落で枯れ松葉というのがあって、毎年 400 本くらい切って処理しているが、これをバイオ燃料に使ってもらっている。こういう利用、バイオ燃料として樹木が利用できると思う。

【A委員】

こういったバイオ燃料等に利用できるような、そういう仕組みがつかれるようであれば是非にですね、この川の中の樹木というのは放置すれば、悪化の傾向になるので、そういうことを少し議論いただければと思う。

あと、流域住民の意見を取れば良いんじゃないかなという話が、いくつか出てたが、この砂利利用に関して、HP等を立ち上げ、広報誌等も配っていくと思われるが、そういった中で、例えば、町内会単位で、何か意見を出してもらおうということも必要だと思う。それ以外にも、常に流域の方々が、砂利の利用に対して何か意見があるようであれば HP 等で自由に書き込んでもらえるような仕組みであるとか、手紙等でも良いので、そういった意見集約といったことができるような仕組みを、是非この機会に作っていただければという風に考えている。

その他、特にはございませんか？

【L委員】

地域のウミガメのボランティアの方も、やっぱり砂浜がやせたことが細かい砂がなくなっている要因かもしれないということを言っていた。そういう意味で、傾斜に気をつけてうまく砂浜の幅を戻してあげることができ、細かい砂が戻ってくるのであれば、ウミガメ的には成功であると思う。

【E委員】

砂とかバラスとかいって、波の大きさ、それから地域の状態によってな、バラスが来たり砂が来たり交互にする。こういう地域や波の大きさによって変わってくる。砂が防波堤にもたれていくのも一緒である。

【L委員】

現場を見ている人間ではないのでなんとも言えないが、壊れてしまっている海岸環境をなんとか元に近い形に戻せたらなと思っている。

【A委員】

昔に比べてウミガメの産卵数というのはどういう風な傾向にあるのでしょうか？

【I委員】

その年によって違う。日和佐のウミガメよりは上陸していると思うが、産卵はしてない。

【L委員】

今年は、上陸が 12 回、産卵が 6 回である。

その産卵成功率というものがあって、ウミガメ自体は、産卵に失敗すると海に戻ってしまう。おなかの中に卵を持っている時間も限られるので、極力早く産卵させてあげるのが一番良い。産卵できる砂浜がある海岸にウミガメがたくさん産卵するという風にいわれている。また、産まれた場所に帰ってくるという話もあるし、そこらへんはまだ分かっていない。大浜より上陸数が多くて、産卵数が少ないというのは、海岸環境的に外洋に近いので砂がよく変化するというものもある。昔は多分もうちょっと産卵しやすかったと言われている。それは環境の変化だと思う。そういう意味で産卵しやすいというのは重要である。

【E委員】

砂浜が短くなったのか？

【L委員】

砂浜が短くなるとやっぱり細かい砂も減って、細かい砂で 60cm くらい掘らないと卵も産めないで、そういう意味で細かい砂がないと、崩れて産めない。産卵時期に、細かい砂がウミガメが産卵する場所にちゃんとあって、そこで産卵できたら、大里松原ではウミガメ的には影響ないと言える。

【A委員】

それではその他、特にはございませんか？

事務局のほうにマイクを返したいと思います。よろしくお願いします。

【事務局】

本日は、長時間に亘って活発なご意見を頂きまして大変ありがとうございます。皆様方の意見を参考にして、今後の政策の展開につなげたいという風に思っております。その他、事務局から連絡事項ございますか？

【事務局】

次回の協議会でございますが、本日頂きましたご意見を参考とさせていただき、各ゾーンの事業計画について更なる検討を加えて参りますので、開催時期につきましてはA委員とご相談の上、改めて日程調整をさせていただきたいと考えております。

【事務局】

以上を持ちまして、第 2 回海部川砂利利用促進協議会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

3. 閉会

開会



事務局の説明



意見交換 1



意見交換 2



意見交換 3

